

IBM における取り組み†

関根 千佳††

1. はじめに

IBM Special Needs System (以下 SNS と略す) は、1986 年、米国 IBM において設立された部門とその製品群の総称である。同年のリハビリ法 508 条 (連邦政府へ納入される OA 機器の障害者対応義務) 以来、障害者/高齢者の情報処理機器アクセシビリティの向上に、各種研究機関、民間の障害者団体などとともに活動してきた。現在も、フロリダ州に 30 名ほどの専門の開発チームと、全世界で 100 名程度の SNS スタッフがおり、ネットワークを通じて活発な情報交換を行っている。日本では、1993 年 5 月に SNS センターをオープンした。これは障害者が実際に機器に触って機能を確認できる、日本で初めての常設展示場であった。

2. SNS 製品とその開発/普及について

SNS 製品の基本的な考え方は、障害者向け専用 PC ではなく、学校や職場で周りと同じ環境を共有することを目的とした補助ソフト、補助具を提供することである。今号で紹介する視聴覚障害以外には、肢体不自由の方のために AccessDOS やキーガードといった補助具や、重度の方のための意志伝達装置「漢字 P ワード/V」がある。また、認知・記憶障害のリハビリ訓練ソフトとして「THINKable/2」がある。

2.1 視覚障害者向け画面入力/確認ソフト「日本語スクリーン・ブレイカー」

DOS/V 画面上のテキスト情報を点字や音声で確認するためのソフトウェア。入力普通のキーボードより英数カナや 6 点で行い、点字ピン・ディスプレイや PC 内蔵音源などで確認する。大学や職場などで晴眼者と同じアプリケーションの利用がほぼ可能である。

2.2 点訳ワープロソフト「点字編集システム」

従来手作業で行っていた点字文書作成を効率化し、複製/修正/追加/削除等を容易に行うもの。点字や音声でも内容を確認できるため、視覚障害者も利用が可能。点字図書館等を結ぶ「てんやく広場」情報ネットワークの DB は、この製品で作成されている。

† Special Needs Systems in IBM by Chika SEKINE (Special Needs System Center, IBM Corp.).

†† 日本アイ・ビー・エム (株) SNS センター

2.3 弱視の方や高齢者向け「OS/2 Warp 画面拡大ソフト」

OS/2 上の Windows や DOS/V の GUI 画面を、2 倍から 32 倍まで拡大するユーティリティ。色反転やカーソル位置拡大、視野狭窄の方のためのリーディングモードなど、弱視者や高齢者が GUI を快適に使うための機能が盛り込まれている。

2.4 聴覚障害の方にビーブ音を画面表示「AccessDOS」

もともとは肢体不自由の方のための入力補助ソフトである AccessDOS は、ビーブ音を画面に表示することでエラーメッセージなどを聴覚障害者に伝える機能を持つ。画面の特定位置に音符などのマークを出すか、画面全体のフラッシュの 2 通りがある。

2.5 聴覚障害児の発声/発語訓練ソフト「SpeechViewer II」

自分の声を自分で聞く事の困難な聴覚障害児が、楽しみながら発声や発音を訓練するためのマルチメディアソフト。声の大きさ、高さ、有声/無声の区別や、音素、単語などをマイクを通じて入力すると画面のアニメが反応する。解析機能も充実している。

3. 将来展望

製品開発としては、今後 GUI への対応が急務である。全盲者の GUI へのアクセス、およびスイッチなどで GUI を使いたいという肢体不自由の方への有効な手段の提供が必要である。海外製品でよいものはどんどん紹介していきたい。しかし、今後もっとも大きな問題となってくるのは、このような製品群の普及促進であろう。これらの製品や製品の情報を、障害者に届ける仕組みづくりこそ、今後メーカーが公共機関と一体となって、取り組むべき課題であると思われる。

(平成 7 年 6 月 6 日受付)



図-1 SNS センター